

日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR 分科会 IIOE-2 小委員会 (第 25 期・第 2 回)

議事要旨

- 開催日時：2023 年 2 月 28 日 (火) 15:00-16:15
- 開催形式：zoom によるオンライン会議
- 出席者： 植木巖、小畑元、齊藤宏明、武田重信、東塚知己、西岡純、本多牧生、
村田昌彦、升本順夫 (計 9 名)

- 議題等

1. IIOE-2 SSC 報告

2023 年 2 月 6-7 日にオーストラリアのパースにて開催された IIOE-2 国際運営委員会の内容について、升本委員長より報告があった。また、同時に開催された SIBER 運営委員会について、本多委員より紹介があった。今回の会議には日本から参加することはできなかったが、国内委員会活動及び東部インド洋湧昇研究イニシャティブ (EIOURI) の活動に関するビデオ報告を行ったこと、また、SSC の主な議論の結果として、2025 年までとなっている IIOE-2 の期間を 2030 まで延長するための検討を進めることになったとの報告があった。

2. 最近の動向について

EIOURI はコロナ禍のため国際的な活動が休止していたが、再度活性化に向けて科学計画の改訂や国際会議での研究発表セッションを企画することになったとの報告が、升本委員長よりあった。また、2023 年 5 月に開催される JpGU でのインド洋セッション及び 7 月に開催される IUGG での IIOE-2 セッションの状況について報告があった。

3. 今後の観測航海予定

今後のインド洋における観測航海の計画として、2024 年に予定されている白鳳丸による東部インド洋航海の概要が紹介された。また、海洋研究開発機構が白鳳丸を使用して臨時の航海を実施中であり、東部インド洋赤道域の係留系の回収、入替え作業を行なっているとの報告が植木委員よりあった。

4. 今後の活動予定

今後の活動の方針について意見交換を行った。国際学会等でのセッションを活発に行うこ

とは良いが、企画の仕方を考える必要があるとの意見があり、ある程度の整理をしながら提案することとした。また、2018年に実施した白鳳丸航海（KH18-06）に関連する論文リストの取りまとめをすべきとの提案があり、実施することとなった。

今後、2024年の白鳳丸航海に向けて、大気海洋研究所の共同利用シンポジウムなどの機会を利用して、日本国内でのインド洋研究の活性化を図ることになった。

- 事前配布資料

資料1：IIOE-2 SSC Agenda

資料2：IIOE-2 National Committee Report Japan

資料3：Eastern Indian Ocean Upwelling Research Initiative (EIOURI)

資料4：白鳳丸 2024 航海プラン

以上